

# 上方の話芸

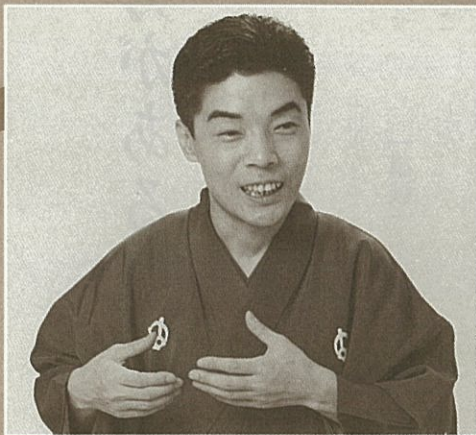
笑いと涙のスペシャリストたち



春野百合子



中田  
ボタンス



林家染丸



旭堂小南陵



内海英華

女道楽／内海英華 「粹曲三味線放談」  
 講談／旭堂小南陵 「太閤記より長短槍試合」  
 落語／林家染丸 「天下第一浮かれの層より」  
 漫才／中田ボタンス 「健康いちばん」  
 浪曲／春野百合子 「両国夫婦花火」(稲葉静子作)  
 曲師／大林静子

お囃子／なにわの会  
 構成・司会／相羽秋夫

平成9年(1997年)

# 11/25

## 【火】18:30開演

(18:00開場 21:00終演予定)

### 茨木市クリエイトセンター センターホール

阪急茨木市駅から西へ徒歩10分 JR茨木駅から東へ徒歩10分  
市役所・市民会館北100m

1階席：2,500円 2階席：2,000円〔全席指定席〕

※就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

■チケットの取り扱い

(財)茨木市文化振興財団 ☎0726-25-3055

関西プレイガイド協会 ☎06-456-2555

ローソンチケット ☎06-369-6633 [Lコード54839]

チケット・セゾン ☎06-232-9999

チケットぴあ ☎06-363-9999

■お問い合わせ・電話予約

☎0726-25-3055 月～金 9:00～17:15(土、日、祝日は休業)/(財)茨木市文化振興財団

主催：財団法人茨木市文化振興財団 〒567 茨木市駅前四丁目6番16号 クリエイトセンター1F

# 上方の話芸

～笑い涙のスペシャリストたち

平成9年11月25日(火) 18:30 / 茨木市クリエイトセンター・センターホール

## 話芸には

## こんな魔力があるのです

「話芸」というのは、文字通り、話す芸、つまり言葉を使って表現する芸という意味です。

その「話芸」には、いろいろな領域があります。今回は、そのさまざまな領域を一堂に会して、それぞれの持つ魅力をたっぷり味わっていただく、という企画なのです。

落語は落語だけ、漫才は漫才だけと、各自同じ領域での催しはいくつもあります、こうした異分野の芸を五つも一緒に見る、という会は、あまりありません。

たまにはあっても、賞取りの参加とか、どこか肩ひじ張ったタイトルが冠されています。

この会は、そうした制約をいっさい取りはずして、それぞれの芸域の第一人者が、それぞれの名誉にかけて、全力を出し切る気軽な催しなのです。

皆さんもどうか、今日の上方の話芸の最高水準をゆったりとした気持ちで見るといふ姿勢でお出かけ下さい。

さて、出演順に演者と演目の紹介をしたいと思います。

トップバッターは、「女道楽」の内海英華です。

「女道楽」という物騒な芸名ですが、これは女の演者が三味線を弾きながら、都々逸はじめ邦楽を披露するものです。

英華は数少ない演者の中でも光り輝いています。

「咲くやこの花賞」を受賞して、いっそう注目されているホープです。瑞々しい色香が、場内いっばいに拡がることでしょう。

「講談」からは、旭堂小南陵が参加してくれました。

入門者の少ないこの講談を、なんとか守ろうと、必死になって若者を説得している手腕が買われて、六年間の参議院議員としての経験があります。

上方講談の骨格とも言えるものに「太閤記」と「難波戦記」がありますが、今回は「太閤記」の中から、誰にも理解しやすい「長短槍試合」の一席を演じてくれます。

「落語」は、林家染丸の至善をお楽しみ下さい。染丸は「上方落語協会」の副会長として、一門はおろか全体の動向に気を配っています。

京都造形芸術大学客員教授、府立東住吉高校芸能文化科特別講師としての活躍も見逃せません。

歌舞伎や邦楽にも造詣が深く、「音曲囃」と呼ばれる分野の嘶を得意としています。「天下一浮かれの屑より」はその代表例です。

「漫才」は、中田カウス・ボタンのベテランコンビが、油の乗り切った抱腹絶倒のしゃべくりを展開してくれま

漫才コンビに与えられる最高の賞「上方漫才大賞」を受賞していることでもわかるように、上方の誇る



相羽秋夫

(演芸評論家  
大阪芸術大学教授)

名コンビです。

ダイマル・ラケットの流れを汲む本格的なしゃべくり漫才で、今回は「健康いちばん」という得意ネタをひっさげての登場です。

おいにご期待下さい。

ト리는「浪曲」の春野百合子です。

二代目吉田奈良丸と初代春野百合子の子供という超サラブレッドです。

関西の全浪曲人が組織する「浪曲親友協会」の会長をつとめ、紫綬褒章はじめ、およそ賞という賞は総なめになっている実力者です。

今回は、浪曲特有のテーブルを取り除き、舞台をいっばいに使って、照明や音響効果を駆使した「両国夫婦花火」という演題で「上方の話芸」のしめくりをします。

と、息をつがせぬ五人の演者の競演で、「話芸」の持つ魅力というか魔力のようなものを堪能いただくたらしめたいと思います。

蛇足ながら、この公演を企画し構成させていただいた私が、それぞれの芸の冒頭に少し解説をさせていただいて、皆さんの興味をより高めようと考えています。

合わせてよろしくお願ひ申し上げる次第です。

(文中敬称略)